

2024年5月15日

各 位

会 社 名 カルナバイオサイエンス株式会社
 代表者名 代表取締役社長 吉野 公一郎
 (コード番号：4572)
 問合せ先 取締役経営管理本部長 山本 詠美
 (TEL：078-302-7075)

BTK阻害剤AS-1763に関する欧州血液学会 (EHA) 2024での発表のお知らせ

6月13日から16日にスペイン・マドリードにおいて開催される欧州血液学会 (European Hematology Association 2024 Hybrid Congress) において、当社が臨床試験を実施中の次世代型BTK阻害剤AS-1763のフェーズ1b試験における安全性・有効性に関する初期データに関する発表が行われますのでお知らせいたします。

AS-1763は当社が創製したブルトン型チロシンキナーゼ (Bruton's tyrosine kinase, BTK) を標的とする高選択的な非共有結合型BTK阻害剤であり、共有結合型BTK阻害剤を含む少なくとも2ライン以上の全身療法に不応もしくは不耐の慢性リンパ性白血病 (CLL) ・小リンパ球性リンパ腫 (SLL) およびB細胞性非ホジキンリンパ腫 (B-cell NHL) の患者を対象としたフェーズ1b試験を米国で実施中です。

本発表は、テキサス大学MDアンダーソンがんセンター白血病科教授Nitin Jain医師を筆頭著者とし、全治験実施施設の治験責任医師が共著者となって行われます。

発表番号：P653

ポスタータイトル	Preliminary safety and efficacy results from a Phase 1b study of oral non-covalent BTK inhibitor AS-1763 in patients with previously treated B-cell malignancies
セッション	ポスター・セッション
発表者	Nitin Jain ¹ , Catherine C. Coombs ² , James D'Olimpio ³ , Nirav N Shah ⁴ , Jacqueline Barrientos ⁵ , Seung Tae Lee ⁶ , Andrew Gillis-Smith ⁷ , Shuo Ma ⁸ , Shirou Kirita ⁹ , Masaaki Sawa ⁹ , Kyoko Miyamoto ¹⁰ , Akinori Arimura ^{9,10} , William Wierda ¹ , Varsha Gandhi ¹¹ , Javier Pinilla-Ibarz ¹²

1. The University of Texas MD Anderson Cancer Center, 2. University of California Irvine Health, 3. Clinical Research Alliance, 4. Medical College of Wisconsin, 5. Mount Sinai Medical Center, 6. Greenebaum Comprehensive Cancer, University of Maryland, 7. University of Massachusetts, 8. Robert H. Lurie Comprehensive Cancer Center, Northwestern University, 9. Carna Biosciences, Inc., 10. CarnaBio USA, Inc., 11. The University of Texas MD Anderson Cancer Center, Department of Experimental Therapeutics, 12. H Lee Moffitt Cancer Center and Research Institute

アブストラクトは以下からご覧になれます。

[EHA Library - The official digital education library of European Hematology Association \(EHA\) \(ehaweb.org\)](https://ehaweb.org)

以上

BTK阻害剤AS-1763について

AS-1763は、CLLを含む成熟B細胞腫瘍の治療を目的として開発中の、野生型および薬剤抵抗性変異型BTKの両方を阻害する高選択性で非共有結合型の経口投与可能な化合物です。イブルチニブを代表とする共有結合型BTK阻害薬は、CLLや他の成熟B細胞腫瘍の標準選択薬として使用されています。しかしながら、多くの患者で、BTKの481番目のシステイン残基（C481）がセリンに置き換わる変異が生じて、共有結合型BTK阻害剤の結合が弱まり、薬剤耐性になることが報告されています。また、最近承認された非共有結合型BTK阻害剤ピルトブルチニブに対する新たな耐性変異も報告されています。AS-1763は、野生型BTKだけでなく、共有結合型および非共有結合型BTK阻害剤に抵抗性を示す変異型BTKも強く阻害し、腫瘍細胞の増殖を抑制することから、既存BTK阻害剤に抵抗性を獲得した患者の治療にも有効と考えられ、次世代型BTK阻害剤として開発を進めています。